

研究タイトル：文字と物語（フランス・カフカ研究の一環として）



氏名：	吉田 芳弘/Yoshihiro Yoshida	E-mail：	yoshiday@wakayama-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	文学修士
所属学会・協会：	日本独文学会, 阪神ドイツ文学会, 大阪市立大学ドイツ文学会		
キーワード：	ドイツ文学, フランス・カフカ, 文字		
技術相談 提供可能技術：	・文学の紹介（ドイツ文学を中心に）		

研究内容： 文字と物語

かつて『TRANSITION』という文芸雑誌がありました。この雑誌の表紙を見たある男が、「いや、これは芸術ではない(No, (i)t isn('t) art!)」と叫びました。雑誌の名前を右から左に逆に読んだのです。一種の「逆さ言葉」で、物理学の「反作用」、化学の「可逆反応」と相同な変化が、文字の世界にもあるのですが、逆に読めば「芸術でない」のならば、そのまた逆の元々のタイトルは「芸術である」と言える、かな？ 有名な話なのでご存知かもしれませんが、この「ある男」とは、かの科学者アインシュタインです。「英語は左から右に読む」という常識には囚われない天才の姿がよく活写された逸話です。さて文学は言葉で創られた芸術ですが、言葉は「音」あるいは「文字」として出現します。私は、原稿用紙の上に、この文字で綴られて成立する物語としての文学を研究しています。英語やドイツ語のように、左から右に横書きで綴られて成立する物語と、日本語のように上から下への縦書きで綴られて出来る物語の特徴が違う、という場合もあるのです。また字母を連続させて綴った語や文に、あらたに1字加える/1字削除することで、全く別の意味の語や文が出来ることがあります。例えば人造人間ゴーレムに命を吹き込んだ護符「 $\kappa\eta\eta$ （右から左に「エメス」と読むヘブライ語で、「真理」の謂。ローマ字表記では TMA）」から最初の字母アレフ「 α （A）」が消され「 $\eta\eta$ （TM、ヘブライ語で「メス」即ち「死）」へと書き換えることで、ゴーレムの活動が止められるという東欧ユダヤの伝説は有名です。そしてこのゴーレム伝説の圏域で生まれた「ロボット」についても、実は同じような「魔術的カバラ的な文字操作」の特質が認められるのです。これも有名な話なのでご存知かもしれませんが、今では誰もが使う「ロボット(ROBOT)」という語は、チェコの作家チャペックの造語です。ロボットの誕生と反乱を描いた戯曲『R.U.R.』（1920年）のなかで、チャペックはチェコ語「ROBOTA（賦役・労働）」から「A」を1字削除して、人造人間を表す新語「ROBOT」を創りました。ここでもやはり「A」が問題となっていますが、「文字の民」といわれるユダヤ人にとって字母「A」は生命の根幹に係わる象徴的の文字であり、このような伝統がゴーレム伝説の圏域内で誕生したロボットにも生きているのです。戯曲の結末で、人類が死滅し、最後に残った「アダムとエヴァ」と呼ばれる男女2対のロボットが、エデンの東、すなわち「産みの苦しみと労働の苦しみ」の土地へと追放されることの意味は重要です。ゴーレムが「TMA」から「TM」となって死んだのとは対照的に、ロボットは「ROBOT」から「ROBOTA」へと回帰して愛し合い労働する、すなわち生き続けるのです。戯曲のこのような結末は、われわれに「労働とは何か？」という古くて新しい問いを突きつけています。詳しく知りたい方はご連絡下さい！（「アレフとゴーレムの変容」については、丹下和彦・松村國隆編著『ドナウ河—流域の文学と文化—』（晃洋書房）も参照してください。）

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	